

昭和十五年七月二十七日資料

第103回 史跡めぐり 越谷宿

副会長 石塚吾男

越谷市郷土研究会

# 第104回 史跡めぐり

★100回記念 日光道中シリーズ (3)

## 日光道中 越ヶ谷宿

日時 昭和55年7月27日(日) 午前9時集合

集合 越ヶ谷市役所前 (尚早の説明あり)

出発 午前9時30分 解散 北越ヶ谷駅後5時

### コース

市役所 — 新町薬師堂 — 新町八幡社 — 中町観音堂(六本木刑場跡) — 中町浅間社(会田太郎平屋敷跡) — 小泉家及び会田家屋敷(土蔵造) — 袋町円蔵院跡 — 新道 — 寺橋 — 久伊豆神社(平田篤胤侯寓跡・吾山句碑、天之岩戸図) — 天岳寺(吾山碑、会田出羽家墓) — 建長の板碑 — 越ヶ谷佛殿跡 — 市神社(須藤振津屋敷跡) — 本町並(御殿表門見通し 御殿下道、会田本陣跡 高丸場跡) — 境板橋跡 — 大沢新開地跡 — 福井本陣跡 — 弘福院(法篋印塔) — 照光院(福井物置墓) — 香取社 — 光明院

## 越ヶ谷宿

埼玉郡越谷領に属し、古くは  
 駒西庄に属したといわれ、奥南東  
 部、元荒川に面した沖積地に位  
 置する日光街道才三(千住草  
 加に次ぐ)の宿場、大沢町と合せ  
 一宿とする。慶長七年(一六三  
 一年)往川幕府による宿駅制  
 度による奥州街道(の日光街  
 道)の駅として、新に越ヶ谷町が  
 造成されこれに伴い大沢が町場  
 化した。のちに両町の交通(伝馬)概  
 図が統合された。

江戸後期には本陣一、脇本陣  
 一、助郷高一万一千八百七石旅宿

五三、戸数一千九百、人口四千六百四、  
 継立の人馬、五十人、五十匹を定数  
 とし、草加、粕壁のほか吉川、鳩ヶ谷  
 大内、岩槻の各宿へも継立をした。  
 この伝馬業務は越ヶ谷町と大沢町  
 とが十日交代で勤めた。

越ヶ谷町は本町、中町、新町の行  
 政区に分れ、それぞれ名主、同屋が  
 置かれ、二、七日に六番市が立ち  
 近郷商圏の中心地であった。

また、休泊施設の殆どが大沢町に集  
 中し特に飯盛旅館と飯盛女が有  
 名であった。(角川地名辞典より)

新町 華師堂 (境華師)

宿の入口 西側にあり、元羽黒修験の

東正院の一部、天岳寺持

越々谷の夢に、「吾山修験東正院

之義 古来より境内に華師堂有之

新願相勤復世罷在候。此辺当山

派觸頭相勤申候」とある

新町 八幡社

新武記に「文和二年」と彫し青

石と神体とす」とある

澄海寺跡

八幡社の南側にあり、新武記

に「元羽黒行人派修験 江戸日本

橋音利町 普門院配下で 大日如來

とあり」とある

越々谷の夢に「澄海寺之義 天岳

派羽黒山法漸寺末修験の由 古来より

右之所に罷居 祈願の旦家 取籠罷在

候 妻帯不仕候」とある

中町 観音堂

観音橋町 (旧街道に在り) の北側に

あり 新武記に「観音の座像一尺二寸

八分 伝教大師の作なり 天岳寺持と

あり

六本木刑場跡

越々谷の夢に「六本木堤以際

古来所故敷者 相掛りし所」とある

中町 浅間社

旧四丁野村に居たり 越々谷町とす

富士山院内此正所 南無浅間大菩薩

上野今満範別巻 本書 元永三年

(一四二六年)六月一日 于時文明八  
年(一四七六年)六月一日別當中納  
言阿闍梨貞清と裏書のある銅  
板(懸佛)が遺つられている古社である

### 会田五郎平大屋敷跡

会田出羽家は荏州家に仕え旗本  
となり江戸へあるが民間の後裔は  
越谷にあり初期の越谷宿に居臨  
した子孫五郎平の屋敷跡

### お泉家屋敷

旧五郎平屋敷の一部も含まれ見  
られ 江戸時代は酒師屋  
おし市兵衛店として栄えり土蔵造  
りかまきり遺つている

### 会田家屋敷

会田五郎平一族 江戸時代より鍛冶屋  
から鍛冶忠心の屋号で荒物商と  
して今より引引之後に土蔵造りも  
残る。

### 袋町

舊長初期すまは市原地と共に会田  
お羽の陣屋構の一部と見られ  
御落として栄えた名残が見られる  
鍛冶 桶 樽 箱 職などの器も地  
取には袋町なく道が通っている

### 田蔵院跡

越々谷の夢に「一、袋町田蔵院之  
義、会田お羽の祈願所、而陰地も  
頂戴罷在候、照蓮院の門徒三八  
俣へ其願者無之、并願白己、而

取籠申候」とある。

### 新道

合田五郎平家口正往年申(一七  
二一—一七一五年)没落越々谷宿  
と遷転したが、その子源兵衛、平  
兵衛兄弟(のろろ平兵衛曰源兵衛  
の養子と作る)は、合田末利以来の祖  
先の地を回復し、平兵衛は文政十  
一年(一八二九年)に久伊豆神社  
に阿茹獅子一對、神橋と新道  
(袋町より元荒川堤に作る)を宇守道  
した(一八二九)従来久伊豆神社は舊跡久  
伊豆神社に連り袋の名は昔語と  
なつた。

### 寺橋

推定寛永六年(一六二九年)中島  
用水(現葛向用水)改修の際、舊  
後用水路を、長曾根溜井に終り  
た。天岳寺領内に開削し、橋を  
架設したと伝えられ、当初は花田  
橋とも稱されたといふ。

### 久伊豆神社

越谷郷の郷社、近世郷解体後も  
我々谷、花田、四丁野、神明下、瓦曾根  
谷中、七左、各河村の鎮守  
祭神——大國主命、事代主命、同姫  
命とある。

久伊豆社は古くは、松市、野子虎  
の氏神と伝えられている。



平田篤胤伝富跡

久伊神社境内にある、國學者平田篤胤は内人である。其名所の山崎長石衛門宅の古又書には、其名に由縁深いものしられる。文政三年（一八一〇年）に久伊豆神社に夫の若くしての大給馬が奉納され、宅物となりついで、伝富は、お居水屋があり、書斎は六帖の墨敷で、西向に落懸をめぐらしてあるが、今も工内がなつてゐる。

吾山句碑

久伊豆神社境内にあり、「ある日の秋の夜や初めすけ」嘉永二年（一八一九年）の作。

吾山は其名所の合田家の本、滝沢馬琴の俳句の師と伝えられる。其名吾山名は秀真、師竹庵と稱する。物類稱呼し、若かりし言詔學者として有名である。

天弁寺

京都知恩院末浄土宗、至登山遍照院、天弁寺と号する。開基は文明年間（一四六九）一四八六年と伝えられ、朱印十五名、其名宿其名町民の菩提寺。

吾山の墓

天弁寺墓地、神田宗（龜甚）の墓域にある。法橋師竹庵居士と刻り出ている。

吾山句碑

村各天岳山門、右側あり昭和九年建立

「いとつるへ水の光るやけさつ秋」

建長板碑

御殿地内元荒川岸にあり

建長元年（一二四九年）在銘で市内最古最大、市指定文化財である。

村各御殿地跡

村各郷の中心元荒川の自然堤防の微高地、久留里神社より四

丁畔、迎授院にあり、村各本郷

の地を伝えられ元荒川に沿った一帯である、村各氏、久留里氏

の陣居構地であり、慶長九年

（一六〇四年）から明暦三年（一六五七

年）まで徳川氏の離館があった、家

康より家綱より四代の岡將軍の舊

跡より日光東照宮参拜の泊館と

なつたが明暦三年江戸大火の際に

二ヶ丸御殿として引移された、この跡

は上相となり御膳所跡のみが除地

として遺され、この御林と稱した

市神社

元神明下にある神明宮を宿禰

と名付け、境板橋橋台に移し市

神社とした

須藤振津屋敷跡

市神社の杜寺、須藤勘太夫住居跡

市町の石祠が遺されている



現在大和屋跡物居

御殿表御門見通し

御殿下通

日光御道より御殿に蓮田  
道で今はわすれにその跡かうのが  
われの跡に昔日の面影は無い

会田木陣跡

今田八石御門屋敷跡に現在に  
佃居今居屋敷とけいする

高札場跡

板橋橋の橋台の上にあつたが、  
跡本所三三自今所が置かれた、  
合所は現在市神社裏に移  
されて道路とつた。

追記

天岳寺 今田出羽家の墓地

本堂、右と入ると直にある。

今田出羽以来の墓があり、旗本会  
田家々代々の方々の墓があるが、墓  
石はもう無い。旗本会田家譜に  
は屋敷のある牛込横寺町あり  
いはお先代官地の寺に葬ると  
あり、天岳寺に葬られたことは記  
録にない。お各今田家の分につい  
ては、お羽以来、天岳寺が菩提寺  
となつてあり、現当主守之助氏夫妻  
の生前墓石が刻り付いた。

9  
境板橋

越後者所し大沢川の境に架りし  
九橋、越後者瓜の夢に「一境  
板橋橋三周長十八間、前  
横田内之町安永年中より三内  
成」とある、現在大沢橋

大沢 新開地跡

又荒川の旧河原で大正初期に  
乙種料地指定地として発展  
し跡  
飯盛女と通するものあり  
考考りの下

福井 本陣跡

会田入右衛門が安永三年（一七  
七四年）に遷転したあと正式に

安永九年（一七八〇年）福井權右衛

門家が本陣と勤めることになった

「越後各社の夢」大沢猫の仇の著者

猫貴は大杉屋当主で代々權右衛門

と名のついていた。

福井本陣大杉屋は明治天皇行幸

の際、草加宿の大川家と苦に行在所

となつたことがある。

弘福院

新武記に「新義真言宗末田舎

剛院之末大沢山觀音寺と号す

本尊阿彌陀を安置すといふ

法管印塔 島根宗石 寛保三年

（一七四三年）寄進

照光院

新武記に「新義真言宗三三宮

一乘院末 梅光山と号す 本尊不動  
尊之安置すしとある

福市本陣に勅めたる大松屋代々の墓  
あり 猶貞の墓も存せしいる

### 香取社

大浜町の鎮守 大浜町の城に併い  
寛永年間より元禄 鷲尾の鎮守  
と移した伝えとある

大浜町が宿後と勅めたる町は町  
内の常盤園より櫓々の寄道あり

陸奥と稱められた時代があった

旧四号国道の開通にあたり境内が

分断されて今は狭くなっている

別名は降持の光明院境内は地続

ついであったようである

### 光明院

香取社の別名寺

新武記に「一別名光明院新義

真言宗末田村金剛院の末香取

山と号す 本尊十一面観音と号す

しとある

お歌い

史料、引字の際誤りあると思われ

るが下発見された場合は併訂正を乞ふ

越谷宿(越谷町, 大沢町)

粕壁至山

大房村

大沢

葛西用水

沼池

沼池

沼池

大

大

町

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

山石

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

野村

赤山

瓦曾根村

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

東

中

林

村

沼池

